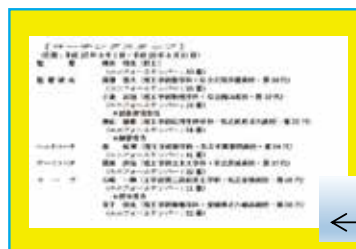


# 日本一のロマンを求めて 柳田スタイルへの変化

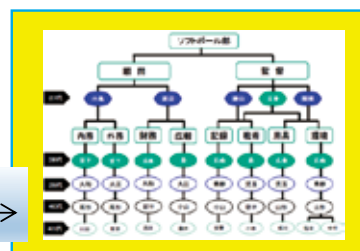
## 第一弾 組織改革

2016年春から理科大ソフトボール部の柳田体制が少しずつ変化を始める。まず大きく変わったのが組織図だ。右図の左上が従来の組織図だったが、引き継ぎのミスなどで上手くいってない状況が続いていた。部を支える裏方の仕事が上手くいかなければグラウンド内でも結果は出ない。

今までの各代は仲が良く横の繋がりは強かった。しかし縦のつながりはそこまではなかった。そこで下級生にも補佐の役職を明確に与え、仕事をともにすることで縦の先輩後輩の連携を強化。この組織改革でチームがより一つになることができたと考えられる。



After



→ランニングメニューの多様化



←体幹トレーニング



→バドミントンの羽を用いて羽打ち



## 第二弾 メニューの進化

近年、野球型のスポーツにおいて、長距離走よりも150～200mぐらいの短距離から中距離のダッシュトレーニングの方が、筋持久力を鍛える面で向いているという説が出てきている。その他にも体幹トレーニング(筋トレの効果の増加や体の軸の安定性を養う)やライントレーニング(一本のラインを用いて傷害予防や効率的な体の使い方を養うもの)、ミート力の増加に向けた羽打ち。スイングトレーサー

という機器を用いてスマホアプリにてスイングチェック。最近では、選手の状態を知るために、スマホアプリで日誌をつけて目に見えて選手の状態が分かるようになりつつある。そういつた近年の技術を利用する事や、効率のよい練習方法が増えてきたことがより良い育成に繋がり、これらを続けた結果、体育学部を有するような強豪大学を倒せる力がついてきたのだろう。



↑ 2016年の高知遠征時の集合写真(スーツ)



↑ 2017年のインカレ時の移動(インカレシャツ)

## 第三弾 服装改革

今まで、大会や遠征、合宿のときの移動の服装は特にルールはなく、ジャージやスウェット等、各自で様々な格好をしていた。

2016年を迎えた時の部内会議で、3月の高知遠征からスーツ着用を義務付けることとした。その理由は、オリンピック選手や日本代表レベルの選手達は航空機・鉄道などの公共の交通機関の移動の時には、必ずスーツやその団体指定のブレザーを着用し、大会前からこのチームで戦いに行くぞ！という意思の疎通をして

いるのを感じ、他のスポーツがそうなのに、なぜ自分たちはそうではないのか。と考え、移動時はスーツの着用を義務付けることとした。

この時を境に、大会や合宿はもちろんのこと、遠征による練習試合もスーツを着用して移動している。この改革が行われた直後の春リーグは2位、そしてインカレ出場、秋リーグ優勝と快進撃が止まらなかった。そしてそれは今も続いている。少しの変化かも知れないが、この改革がチームをよりまとめ、大きな力を生み出している。

## 進化を遂げつつも、変わらない部分もある



↑ 試合開始前の『東京理科大学名物B. Bファイト』



↑ 試合中は全員が立って、みんなで戦う姿勢

これ以外にも、練習前の投手サークルを使用しての円陣。試合後の相手チームとのエール交換など、まだまだたくさんある。熱い伝統はそのまま継承し続けている。

(第39代 大江 雄登)